

インタビュー 家族に迎えて

センターから譲渡されたニャンコ
その後、どうしていますか？

17歳の2匹を迎えて くれた家族の輪

2匹の高齢猫を迎えてくれたTさん。それは自分の年齢を考えての選択でした。

ご主人、娘さん、息子さん、お孫さんによるバックアップ体制も万全。猫が来たことで家族の会話も増え、つながりが強くなったそうです。「食事やトイレの色々な工夫も楽しい。『ぼあびい』と『くうー』の思うままに暮らしてくれれば・・・。そしてきちんと看取るまでが自分の責任。」そう話すTさん。コタツに入ってゆったりしている2匹。そこにはあたたかな空気が流れていました。(A.N)



▲くうー ▲ぼあびい

犬猫の飼い主さん募集

～新しい飼い主さんになっていただけませんか？～

センターでは、引き取った犬猫のうち、適正があると判断した犬猫を希望者に譲渡する制度があります。犬や猫の譲渡を希望される方は、ぜひセンターまでお問合せください。ただし、犬や猫の譲渡には、以下の条件がありますので、あらかじめ御了承ください。

譲渡できる方の主な条件（詳細は、センターへ御確認ください。）

- ・京都府域にお住まいの成人で、譲渡希望者が飼い主となること。
- ・ペットの飼養が制限されていない住宅に居住していること。
- ・飼い主として責任を持ち、家族の同意を得て、家庭で犬や猫を適正に終生飼養できることなど

手続き方法

- ① センターに所定の申込書等を提出（郵送でも可）
- ② 希望の条件に合う譲渡可能な犬猫が収容された場合、センターから電話で案内
- ③ センターで実際に対象となる犬又は猫と面会
- ④ 犬又は猫の引取りを決めたら、譲渡に当たって必要な書類に記入後、譲渡
※マンション等の集合住宅にお住まいの方には、ペット飼養が可能である旨を記載した契約書等を確認しますので、あらかじめ御了承ください。

注意いただきたい点

以下のことを御理解ください。
犬や猫の受入れに当たり、即断する必要はありません。犬や猫は15年以上生きることもあります。終生飼っていただくためにも、御家族と相談し、十分に考慮したうえで、御決断ください。
この制度は、お申込みいただいた方全員に紹介できないことも多くあります。また、申込みにより受義務は生じません。犬や猫の受入れを希望される方と保護された犬や猫の”縁のかけ橋”となるものです。



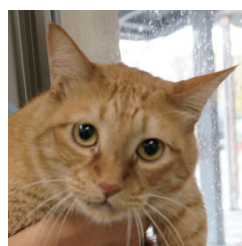
毎月
第2土曜日
犬の譲渡会
を開催しています



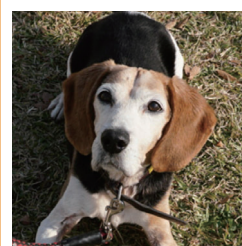
詳しくは、ホームページをごちからご覧ください→

※既に譲渡先が決定している場合があります。

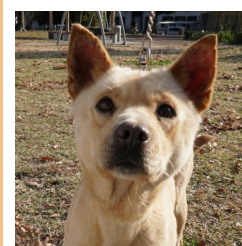
ぼくたちと
暮らしませんか？



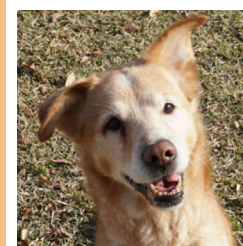
みきお 5歳 オス



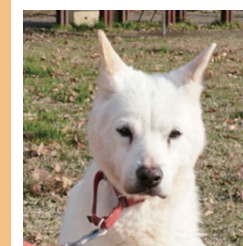
コピー 13歳 オス



ロン 推定3～4歳 メス



えいじい 推定10歳前後 オス



しょうこ 10歳前後 メス

京都動物愛護センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
 - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
 - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分
- ※無料駐車場はございません

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地

TEL: 075-671-0336

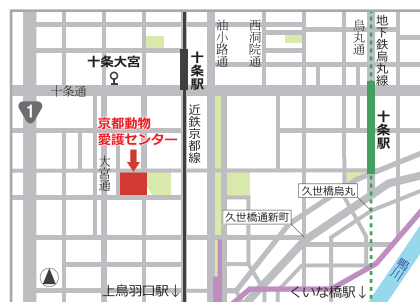
FAX: 075-671-0338

開所時間: 午前9時～午後5時

休所日: 木曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始

Facebook → <https://www.facebook.com/anilove.kyoto/>

Twitter → <https://twitter.com/kyotoanilove>



京都動物愛護センターマスコットキャラクター
LINEスタンプ第2弾発売中



本誌は「京都市動物愛護事業推進基金(人と動物が共生できるまちづくり基金)」からも出資しています。動物愛護推進基金に寄附していただいた方のうち、希望者はホームページに公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページでご覧いただけます。

→ <http://kyoto-ani-love.com/>



この機関紙は行政とボランティアが協働で作成しています。

京都動物愛護センター機関紙



令和元年度 春号

愛ランド通信

—人と動物の共生を目指して—

LINE
スタンプ
第2弾
発売中

特集 保護から譲渡まで

動物お悩み相談室

フィラリア症って
どんな病気ですか？

ペットのためのマナー&ルール

犬のお散歩マナー
～ウンチ・オシッコ編～

センターニュース

関西盲導犬協会へ行ってきました！

インタビュー家族に迎えて

17歳の2匹を迎えてくれた家族の輪



モデルの子: えいじい 推定10歳前後 オス

特集 保護から譲渡まで 「生きる力」

保護された犬・猫を動物愛護センターに収容し、健康を維持しながら、譲渡につなげていくことは、簡単なことではありません。

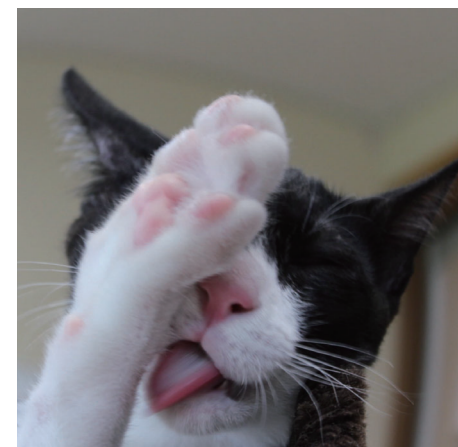
子猫の場合は、「生きる力」を持っているかどうかは鍵となります。センターに収容された時点で既に「生きる力」を失っているものや収容後に「生きる力」がなくなってしまったものなど、努力をしても命を救えなかったときは、とてもつらく感じます。このように譲渡室にデビューするまでは大変ですが、その後は、譲渡される日を安心して待つことができます。

一方、老犬の場合は、病気を持っていたとしても、目に「生きる力」が感じられ、治療を行うことで、譲渡対象となるものがほとんどです。しかし、その後が大変で、新しく飼い主となってくれる方がなかなか現れないため、SNSや譲渡会で性格や特徴について情報発信し、譲渡を希望する皆さんの目に留まるよう、アピールに努めます。こうした努力のかいあって、譲渡が決定し、新たな飼い主さんとドッ

グラに遊びに来て、幸せな明るい表情を見せてくれたときの喜びはひとしおです。癖が強かったり、手間がかかったり、譲渡までの苦労が大きいほど、思い入れも強くなり、職員やボランティア同士、また、飼い主さんとも話が盛り上がりやすくなります。

猫の場合は、ほとんどが野良猫の子猫ですが、犬の場合は、飼い犬だったものが多く、飼い主と過ごした幸せな時期があったと考え、複雑な気持ちになります。

犬・猫が幸せな時間を過ごせるように、「生きる力」を支えてあげたいと思います。



▲グルーミングで気持ちもおちつくにやへ



▲ センターで産まれた子犬。職員と一緒に子育てしています

時間と手間をかけて譲渡へ

犬 センターでは「京都方式」といって、犬の保護、引取りから譲渡に至るプロセスを外部の専門家の高度なノウハウを活用し、その監督の下、職員と協働で犬の行動修正を行いながら、適正譲渡を進めています。

犬をセンターで保護した後は、まず健康状態に問題がないか確認し、必要があれば処置をしたうえで、行動観察をしていきます。

- 観察項目**
- ✓ 首輪、リードの着脱
 - ✓ 食餌
 - ✓ ケージに入る訓練
 - ✓ 歩行状態
 - ✓ 驚いている時の様子
 - ✓ 排尿、排便
 - ✓ 吠え（犬舎内収容中、人がいる時）
 - ✓ 他の犬への反応
 - ✓ 人馴れ、触れるか等の反応

上記の項目を観察しながら、トレーナーと協力して行動修正を行います。このとき撮影した動画は、譲渡時のアドバイスにも役立っています。この時点で全く問題のない犬もありますが、保護される前に形成された性格や行動が、保護後しばらく経過してから、問題行動として現われる場合もあることから、慎重に見極めをしていきます。また、健康管理として、狂犬病予防注射やワクチン接種、フィラリア検査及び予防薬のほか、疾患があれば治療もしています。トリミング、シャンプー、ブラッシング、散歩など、無理強いするのではなく、その犬に合わせて、世話をしていきます。元の飼い主の不適切な飼育により心に傷を負ってしまった犬などもあるため、犬の性質を見極めて、1頭でも多く譲渡に結びつけることを目標としています。

犬の場合、年齢や体格、性格などにより、譲渡希望者の条件と合わないことも多いのですが、時間と手間をかけて見守った分、新しい飼い主さんが決まったときは、本当に嬉しく、幸せを願う気持ちで一杯になります。



猫 センターに保護される猫の大半は子猫です。自分で餌を食べ、水を飲むことができなかったり、重い感染症にかかっている場合などは、譲渡することが難しくなります。

- 検査項目**
- ✓ 外部寄生虫・内部寄生虫の駆除
 - ✓ 3種混合ワクチン（子猫は2回）
 - ✓ 浮遊法による検便検査（コクシジウム卵、回虫卵等）
 - ✓ パルボウイルスチェック（下痢等の症状がある猫のみ）
 - ✓ 避妊去勢手術（手術可能な年齢の猫のみ）
 - ✓ FeLV 検査（猫白血病） FIV 検査（猫エイズ）は成猫のみ

健康状態について様々な検査を行ったうえで、体重の増減、食餌状況など、譲渡可能な状態まで安定して育っているか観察した後、譲渡室に移動します。キャットタワーやおもちゃで遊んだり、他の猫ともじゃれ合いながら、人にも猫にも慣れさせていきます。

野良猫として生まれた子猫は人と接したことがなく、最初はおびえています。すぐに慣れてじゃれ遊びに夢中になります。成猫では、飼育放棄などにより心を閉ざしている猫もいますが、毎日愛情を持って世話をしているうちに、徐々に距離が縮まり、側に寄り来たり、体をなでさせてくれたり、目を細めてゴロゴロと喉を鳴らしてくれるようになると、とても嬉しくなります。

譲渡室ではツンデレでも、新しい飼い主さんと暮らし始めるとべったり甘えん坊になるものもいますが、仲良くなるまでに時間がかかる場合もありますので、気長に見守ってあげてください。



▲ 賢くシャンプーできたね

保護犬・保護猫を迎えよう

動物を飼育する前に、必要最低限の知識があるか、最期まで飼育できる環境にいるか、家族の理解はあるのかなど、十分に考えましょう。犬や猫は物ではなく、人間と同じ『命あるもの』として守っていく責任が飼い主にはあります。「こんなはずじゃなかった」ではなく、「こうなるかもしれない」と考えてみることも必要かもしれません。どんなに可愛くても、飼うことが無理な場合は、『飼わない』を選択することも一つかもしれません。先住犬・先住猫がいる場合は、トライアルで相性が合うかどうか見守ってあげることも大切です。家族に迎えたら命ある限り楽しい毎日と一緒に過ごしてあげてくださいね。(M.Y&yoshi)



フィラリア症ってどんな病気ですか？

フィラリア症とは？

蚊の媒介によって、フィラリア（犬糸状虫）が犬の肺動脈や心臓に寄生し、全身の血液循環や内臓に深刻な障害を与える恐ろしい病気です。咳、体力の低下、腹水、食欲不振、体重減少、喀血などの症状が現れ、多くの虫体が血管を塞いで突然死する場合があります。

予防法はありますか？

血液検査でフィラリアに感染していないか確認後、蚊の活動期間と蚊がいなくなって1カ月後までの間、予防薬を1カ月に1回確実に投薬することで、ほ

ぼ予防できます（飲み薬や背中に垂らす薬などがあります。）。

もし感染してしまったら？

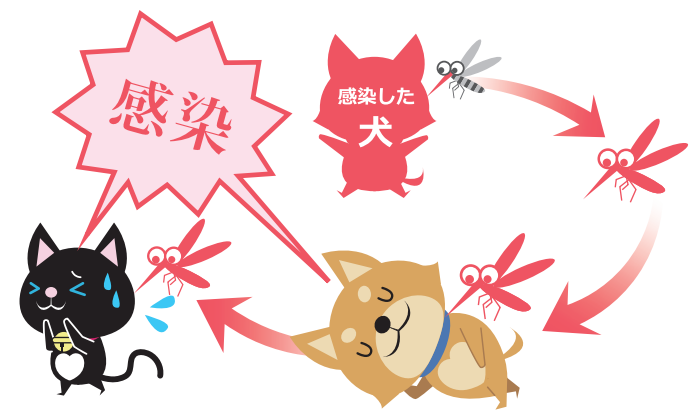
犬の年齢や健康状態、寄生状況に応じて、外科手術による虫体の摘出や投薬による駆虫などの治療を行います。

猫もフィラリア症になりますか？

犬に比べると確率は低いといわれていますが、感染したときは、呼吸困難、咳、嘔吐、食欲不振などの症状が現れます。猫の体内で成虫になりにくいいため、血液検査で発見しづらく、早期発見でも体

が小さいことから、虫体が血管につまって突然死することもあります。予防方法は犬の場合と同じです。気になるときは、かかりつけの獣医師に相談してください。(Jun)

フィラリア症は治療より予防です！
検査 & 予防薬を忘れずに



※通常感染した猫から蚊を介して猫に感染しません。

ペットのためのマナー&ルール

犬のお散歩マナー ~ ウンチ・オシッコ編 ~

春は犬と散歩するには絶好の季節です。犬と散歩する際に忘れていた物はありませんか？オシッコを流すための水、ウンチを持ち帰るための袋などは必需品です！自治体などの対策でウンチの放置は徐々に減ってはいますが、それでもマナーを守らない飼い主がいて、トラブルの原因になっています。**ウンチ・オシッコはあらかじめ自宅等で済ませるように努め、もし散歩のときに排せつしたら、必ず後始末をする“お散歩マナー”を守りましょう。(T.O)**

ウンチ・オシッコの後始末は飼い主の責任です。

関西盲導犬協会へ行ってきました！



京都動物愛護センターでは、現在約90名のボランティアが活動しています。センター以外の施設を見学することにより、幅広い視点から動物愛護の考えを深めることを目的として、毎年、施設見学研修会が実施されています。平成30年度は12月16日に関西盲導犬協会の見学に行きました。

◀ 訓練犬たちが暮らす木香テラス

盲導犬や視覚障害についてのお話、訓練の実演や犬舎見学、盲導犬ユーザーのお話を伺い、とても有意義な時間を過ごすことができました。



▲ 穏やかな表情のリタイア犬

また、盲導犬ユーザーと出会ったときの声掛けや誘導方法などの実演もあり、とても勉強になりました。

自然豊かな環境で楽しそうに訓練を受ける訓練犬の姿が印象的でした。(Y・N)